

《実施結果報告書》



広島平和記念式典派遣事業

2012年8月5日（日）～7日（火）



燕市

目 次

I	広島平和記念式典派遣事業実施にあたって・・・・・・・・・・	1
II	研修レポート・・・・・・・・・・	2
	① 三日間の日程	
	② 研修の記録	
	③ 学びの記録	
	④ 学びの発信	
III	派遣事業の概要など・・・・・・・・・・	20
	① 派遣事業の概要	
	② 派遣事業参加中の役割分担	
	③ 話し合いによる、事業の目的に沿った学習活動の展開	
	(資料) 非核平和都市宣言・・・・・・・・・・	23

広島平和記念式典派遣事業実施にあたって

燕市長 鈴木 力

燕市は、平成18年12月25日に「非核平和都市」を宣言しました。この宣言は、平和を愛する世界の人々とともに核兵器の廃絶と非核三原則を強く世界に訴え、核兵器のない真の世界恒久平和が実現することを願って行ったものです。

非核平和は私たち人類の普遍的な願いです。世界でただ一つの被爆国の国民として、今日、享受することのできる平和と繁栄が、戦争による尊い犠牲の上に築かれているということを、後世に永遠に語り継いでいくことが大切であると実感しております。

燕市では非核平和の推進と平和学習活動の一環として、平成20年度から毎年、市内の5つの中学校から生徒代表を広島へ派遣し、今年で5年目となります。

生徒たちは平和記念式典へ出席するとともに、各学校の全校生徒が平和の祈りを込めて、また戦争の犠牲となられた方々の冥福をお祈りして折った千羽鶴を「原爆の子の像」に捧げてきました。

また、広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆供養塔などの見学、被爆体験講話の受講、灯籠流しへの参加も体験してきました。生徒たちは直接目と耳で学び、感じてきたことを通して、「命の尊さ」や「平和を愛する心」を学んだことと思います。

今後は、各学校において報告会や事後研修を実施し、広島で学んできたことを生徒たちみんなに伝え、平和の大切さを共有し、さらに次の世代へ伝えていってもらえるものと思います。

終わりに、今回の事業実施に際しまして多くの方々からご協力いただいたことにつきまして、心からお礼を申し上げます。

三日間の日程

1日目 8月5日(日)

- ◇ 出発式(吉田庁舎) 7:15 ~ 7:30
- ◇ 移動(燕三条~広島) 8:11 ~ 14:15
- ◇ 木松旅館 14:30 ~ 15:20
- ◇ 平和記念公園 15:30 ~ 17:00
 - ・千羽鶴奉納(原爆の子の像)
 - ・公園内見学
- ◇ 木松旅館 17:45 ~
 - 被爆証言講話 18:00 ~ 19:00
 - ミーティング 20:00 ~



2日目 8月6日(月)

- ◇ 木松旅館 ~ 6:40
- ◇ 広島平和祈念式典参加 8:00 ~ 8:45
 - ・原爆死没者名簿奉納・献花、黙とう・平和宣言(広島市長)
 - ・平和への誓い(子ども代表)・来賓あいさつ・平和の歌(合唱)
- ◇ ひろしま子ども平和議会見学 10:00 ~ 11:40
- ◇ 広島城見学 13:30 ~ 14:30
- ◇ 広島平和記念公園 14:30 ~ 17:00
 - 原爆死没者慰霊碑参拝、企画展見学
- ◇ 灯ろう流し参加 19:00 ~ 20:00



3日目 8月7日(火)

- ◇ 木松旅館出発 ~ 7:10
- ◇ 市内見学(厳島神社) 7:30 ~ 11:35
- ◇ 移動(広島~燕三条) 12:01 ~ 18:04
- ◇ 解散(燕三条駅) 18:15



研修の記録（事前学習）被爆体験者へ聞いてみたいことは何か

●原爆投下前

- ・身内の中にも戦争に行っていた人はいましたか？
- ・原爆投下前でも家など空襲にあっていましたか？
- ・原爆投下の前ぶれというものはありましたか？
- ・戦争中どんな気持ちでしたか？
- ・食料などはどうしていましたか？
- ・疎開などしましたか？
- ・戦争の手伝い、仕事はやっていましたか？またどんなものですか？
- ・戦争中一番苦しかったことは？逆に楽しかった嬉しかったことはありますか？

●原爆投下直後

- ・どのような感じでしたか？
- ・身内に亡くなった人はいましたか？
- ・亡くなった人は教科書では皮膚が垂れ下がるなど書いてありましたが本当ですか？
- ・この直後の気持ちはどんなものだったのですか？
- ・自分の身内、知り合いと確認はできたのですか？
- ・ご自身にも原爆での放射能などで傷などは負いませんでしたか？

●終戦～現在

- ・原爆を落とした米国をどう思いますか？許せますか？
- ・終戦直後の気持は？
- ・終戦後、どのように食料などは配られたのですか？
- ・このような惨事を体験して思うことは？
- ・戦争中と比べ現在はどうですか？
- ・なぜ、話すこと、思い出すこともつらいことを私達に話してくださるのですか？
- ・未来、現在の戦争を体験していない子供達に向けて伝えることはありますか？

学びの記録（参加中学習）広島平和記念式典

8月6日、67年前、この広島に原爆が落とされ、一瞬で多くの人の命をうばいました。現在も原爆による影響がある方もたくさんいらっしゃいます。

そして、67年後の8月6日、私達は広島平和記念式典に出席しました。公園内で献花用の花をもらい、自治体席に座りました。多くの人で公園内は埋めつくされていました。

8時、式が開会されました。一番最初に原爆死没者慰霊碑に名簿を奉納しました。この名簿には、今年原爆で亡くなった方の名前が毎年書き加えられ慰霊碑の中に奉納されます。

奉納が終わった後、広島市議会議長から式辞が述べられ、献花となりました。広島市長から、広島市議会議長、遺族、子供代表、被爆者代表、その後、野田総理を含める来賓の方々が献花をされました。献花が終わり、ついにその時間がやってきました。



8時15分です。67年前の8時15分に原爆は落とされ、人々の命をうばっていったのです。そして、二度とそんなことはくり返してはならないと思いながら、式典に参加している全員が1分間の黙とうを捧げました。黙とうには平和の鐘と呼ばれる鐘が出され、原爆で亡くなった人々の魂に伝わるような鐘の音がしました。

長い、永い67年前のことを思いながら、1分間の黙とうは終わりました。

広島市長が平和宣言をした後、放鳩がされました。広島市内小学生が平和への誓いをし、内閣総理大臣、広島県知事、国際連合事務総長があいさつをしました。2人はもちろん、国連の方は英語で何を言っているのか分かりませんでした。あいさつをした3人は全員二度と原爆を使わないという思いが伝わってきました。



式典に参加してみると、たくさんの国々の人が式典に参加していました。それだけ世界が関心を持ち、原爆は二度と使ってはならないことを確認しているように思えました。

私も事前学習や広島に行ってから、教科書では知り得なかった原爆の恐ろしさ、悲惨さが学べました。

原爆は使ってはならないということを、少しでも多くの人に伝えていきます。

学びの発信（参加後報告）

私は広島に行って、命の大切さ、尊さを学びました。教科書や事前学習で学んでいましたが、現地へ行き、当時の様子や残っているものを見聞きする方が生々しさや悲惨さが自分の体に語りかけるように伝わってきました。

有名な原爆ドームは写真で見るよりもボロボロで周辺にはがれきのようなものが落ちていました。一つの爆弾でドームはもちろん、人や家屋が一瞬で消し飛び、焼けてしまうものなのかと恐怖を感じました。罪のない人々が何で死ななくてはならないのだろうと怒りも湧きました。



被爆者の方のお話は、一番リアルで、人間はこんな苦しく辛いことを経験できるものなのかと、涙が出そうでした。

記念式典では様々な代表者の方が私達の思いと同じように、絶対に原爆は繰り返してはならないものだ、と訴えていました。

私達は広島に行って、原爆そして戦争はしてはいけないものだと改めて思いました。また、私達が今度はその気持ちを受け継ぎ、伝えてゆく番です。日本は唯一の被爆国として世界中に原爆反対を訴えています。私も周りの人に少しでも理解してもらえるよう、学んだことを発信していきます。



研修の記録（事前学習）今、世界のどこかで起きている戦争

●現代の戦争の特徴

戦争とは、軍事力を用いて様々な政治目的を達成しようとする行為、または用いた結果生じる国家間の対立状態である。

国家もしくはそれに準ずる組織が軍事力・武力を行使し、作戦・戦闘を組織的に遂行する行為および状態。

これまでの領土の占有を最終目的とする形態の戦争は減少し、現代の戦争は、民族・宗教の対立によるものや、テロが関係するものなど複雑多様化している。

●2008年以降に世界で起きた戦争

- 2000年～ インドネシア紛争
- 2001年～ アフガニスタン侵攻
(対テロ戦争)
- パキスタン紛争
- 2003年～ ダルフール紛争
- 2004年～ サリン紛争
- タイ紛争
- ウジリスタン紛争
- 2011年～ シリア内戦



そして今、ニュースで大きくシリア内戦が取りあげられています。

今、この時間にも世界で戦争が起きて人間どうしが傷つけあってたくさんの方が亡くなっているという実態を考えると、とても悲しく胸が痛くなりました。

学びの記録（参加中学習）平和記念資料館

1945年8月6日午前8時15分、世界で初めてヒロシマに原子爆弾が投下されました。まちは一瞬にして破壊され、多くの人々が苦しみ亡くなりました。

平和記念資料館には原子爆弾投下に関わる資料、写真、被爆者の遺品が数多く展示されていて、当時何があったのかを知ることができます。

被爆前のヒロシマは高等師範学校が明治以降に開校し、学都として、また陸軍施設が集中し、軍都としても発展を遂げていました。そんなヒロシマをたった一発の爆弾が地獄へと変えてしまいました。

広島に投下された原子爆弾は長さ3メートル、重さ約4トン、約50キログラムのウランが詰められていました。高性能爆薬の1万6千トン分に相当するエネルギーが地上600メートルの上空で目もくらむ閃光を放って炸裂しました。3,000～4,000度の高熱と驚異的な爆風が街をかけめぐり、またたく間に火の海となり、火災が発生し、ほとんどの建物が崩れ落ち、数日のうちに亡くなる人が続出しました。



左の写真は当時3歳だった幼い子が自宅の前で遊んでいる時に被爆した三輪車の写真です。真っ黒に焦げてボロボロになっていて、とても無残な状態です。3歳の幼い子が、この三輪車と同じように被爆したと考えると、とても心が痛くなり、原子爆弾がどれほど恐ろしく、悲しいものかを強く感じました。

右の写真は焼け焦げた女子学生の夏服です。焼けて元の形はなくなり、服なのかすら分かりにくいくらいひどい様子です。

また、原子爆弾はたくさんの放射能を放出させて人体に大きな障害を与えました。被爆直後から短期間に現れた急性障害は、発熱、はきけ、下痢、出血、脱毛、全身のけだるさなど様々な症状を引きおこし、多くの人が亡くなりました。さらに、急性障害の後に発症する後障害として、ケロイド、白血病などの病気が多くの被爆者を苦しめています。



学びの発信（参加後報告）

私は三日間、世界で初めて原爆投下された地、ヒロシマを訪ねて、自分の目や耳で見て聞いて、心で平和について深く感じてきました。

平和記念資料館では数々の遺品を実際に見てきました。どれもボロボロになっていて、原子爆弾がどれだけの威力をもっていたかが伝わってきました。遺品一つひとつに悲しみや怒りが込められていました。

被爆者の方の講話では原爆投下直後の広島の話聞かせてもらいました。話を聞いていて、心の中が熱い思いでいっぱいになりました。

また、平和記念式典では、原爆が投下された8時15分に世界平和を祈って一分間の黙とうを世界中のたくさんの人たちと一緒に捧げてきました。世界中の人たちが平和を願っているんだと強く実感しました。

今回の広島平和記念式典派遣事業は、普段の生活では感じるこのできない、とても大切な活動になりました。

平和について、今まで一番強く考えて、平和の尊さ、素晴らしさを本当に実感すると同時に、核兵器という非人間的な兵器を使うという過ちを二度と繰り返してはいけないと思いました。過ちを繰り返さないためにも、自分ができることは今回の事業で感じたことを周りにいる人に受け伝えていくことだと思います。

私は、この事業を通して、夢や希望のある未来を守ることを誓います。

研修の記録（事前学習）原爆投下の歴史的背景

●原爆の使用について

1945（昭和20）年以降、日本は大規模な空襲により主要都市のほとんどが破壊され戦況は圧倒的に不利でした。アメリカは、戦争を終結させる手段として原爆を使用したという説が有力です。

他にも

- ・原爆の威力を確かめる
- ・放射能による人体への影響を調べる

などいくつかの説があります。

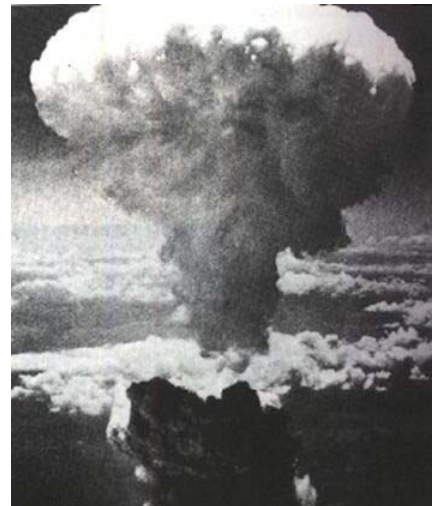
●広島投下への経緯について

投下目標は、原爆の威力を正確に測定できるように直径3マイル（約4.8キロメートル）以上の市街地を持つ都市、大きな軍港を持つ都市の中から選びました。

原爆投下までの町並みを残すため5月28日に目標都市への空襲を禁止しました。

7月25日には目標都市の広島、小倉、新潟、長崎のいずれかに対する投下命令を下しました。広島を第一目標とする命令を下したのは8月2日。それは広島に連合国軍の捕虜収容所がないとっていたためです。原爆は目視で投下することになっていました。

そして8月6日、広島の天気は晴れていたため原爆が投下されました。



●当時の広島の様子

明治時代から広島は軍事に関係した多くの施設がおかれ、軍隊を海外へ送るための基地ともなり、軍都として発展しました。戦時中は、さらに軍事施設の新設、拡充が行われるとともに、全国から集められた多くの兵士が海外に派遣されました。

また、工場では、政府の命令により、生活物資の生産から軍需物資の生産へと急速に切り替えられることになりました。長引く戦争のなか、市民生活は苦しくなり、多くの市民が戦場や軍需工場などに動員されました。

学びの記録（参加中学習）広島記念公園

●平和の像とは

「平和の像」は、広島で生まれ、2歳のときに被爆し、12歳のときに亡くなった佐々木禎子さんという人がモデルになっています。彼女が白血病で入院した時に鶴を千羽折れば病気が治ると願い、折り続けました。現在では佐々木さんのような犠牲者を出さないように全国からたくさんの千羽鶴が奉納されています。

奉納される時には、千羽鶴をかける所もなく、人が横になって通らないといけなくたくさんあります。このことから、たくさんの人々が広島のことを思って、平和を願っていると思いました。



●平和の軸について

平和の泉から見ると、慰霊碑と平和の灯と原爆ドームが一直線に並んで見えます。公園には、水を求めて亡くなった人々のために、水がたくさんあったり、泉がたくさん作られています。

●広島平和式典について

毎年8月6日の朝に行われています。毎回、1万人くらいの人々が参列し、海外の大使や総理大臣などたくさんの人々がいました。

広島市長や総理大臣の話を聞いて、核兵器の廃絶や原発問題の解決に向けて努力していかなければならないと思いました。特に、広島市長の、唯一の被爆国として核兵器の恐ろしさを伝え、世界中の核兵器がなくなることを願っているという言葉がとても印象的でした。また、当日は席がないくらいの人々の数で、テレビもこの式典の様子を放映しています。

●原爆ドームについて

当時は広島県産業奨励館と呼ばれていて、特産物の即売市が行われていました。被爆後は離れ離れになった家族との伝言板の役割を果たしていました。原爆ドームは三回補修工事が行われていて、すべて寄付金で行われました。



学びの発信（参加後報告）

今回、僕は直接広島に行って感じたことがたくさんありました。今まで授業やテレビなどでしか原爆や戦争について学ぶことがありませんでしたが、資料や映像ではわからないような原爆の威力や核兵器の怖さ、そしていつまでも消えることのない人の痛みを深く感じました。

広島では、最後の核実験からの時間を計っています。これを見て、いつか世界から核兵器がなくなってほしい、人間を大きく変えてしまう戦争は絶対にしてはいけないと強く思いました。

また、僕たちがこういう話を直接被爆者の方から聞ける最後の世代に近いと考えています。だからこそ、聞いたり、見たりしたことを残していくのが大切だと思いました。

同じ過ちを繰り返してはいけません。

核兵器はもちろん、戦争は、言い方が違うだけで、犯罪を重ね続けているのと同じだと思います。兵士として戦争へ行っている人々は、みんなそれぞれ夢を持ち、それに向かって努力し、人生を楽しみたいと思っていたはずです。でも、そんな夢も壊していく戦争は、人の可能性を消しているのと同じです。



他にも、小さな子どもや、おじいさん、おばあさんなど、兵士として行かなくても、流れ弾や爆弾、そして両親を失ったりなど、辛いでは言い表せないほど、苦しんでいます。

誰だってみんな同じスタートラインに立っています。人が人を変えてしまう戦争は絶対にいけないと思います。だから、この経験を後世に伝えていくことが私の役割だと思います。そして、日本だけでなくどの国の人々も自分の夢に向かって進めるような世の中にしていかなければいけないとこの式典に参加して私は思いました。

研修の記録（事前学習）原子爆弾の被害・惨状

●1945年8月6日午前8時15分...

1945年8月6日月曜日の朝は快晴で、真夏の太陽がのぼると気温はぐんぐん上昇した。人々は皆、それぞれの一日を始めようとしていた。

その時、8時15分。人類史上最初の原子爆弾が広島に投下された。



原爆が炸裂したとき、広島には35万人前後の人々がいた。そのうち、原爆によって死亡した人は約14万人と言われている。

爆心地から1.2kmではその日のうちにほぼ50%が死亡。それよりも爆心地に近い地域では80～100%と推定されている。

爆心地から2km以内の建物はほとんどが全壊または全焼した。

●影

右の写真は兵士とはしごの影。

熱線を受けた部分は塗料のコールタールがはがされたが、人とはしごの部分は熱線がさえぎられて元のまま黒く残った。このような現象が様々な場所でおこった。



●黒い雨

爆発の20～30分後頃から雨が降った。

最初の1～2時間は爆発の時、巻き上げられた泥やチリ、ススなどを含んだ黒い大粒の雨が降った。

人々は口をあけてその雨の飲んだ。

●深い... 深い...

子供を抱えたまま死んだ人がいた。

「お母さん」そう言って泣いた人がいた。

血だらけになりながら我が家へ向かう人がいた。

たった一瞬であまりにも多くの命が消えていった。

深い深いその爪あとを私たちは忘れてはいけない。

私は広島に行って、この目で見てきたいです。そしてたくさんの人に伝えたいです。

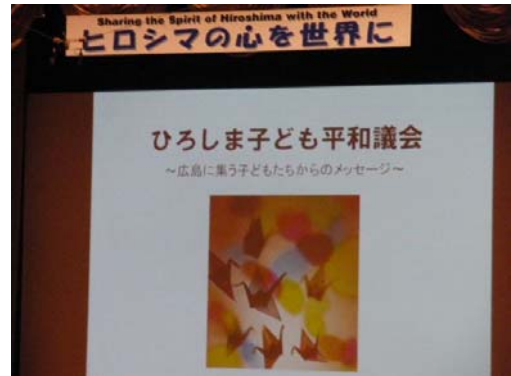
学びの記録（参加中学習）ひろしま子ども平和議会

●ひろしま子ども平和議会

8月6日に行われた「ひろしま子ども平和議会」に行ってきました。

私たちと同年代の子どもたちが自分たちの調べたことや伝えたいことを発表していました。

演劇や歌など様々な方法で自分たちの思いを伝えていました。



●カンナがつなぐ平和のバトン

広島に原爆が投下された時は75年間は草木が生えないと言われていたそうです。

しかし、そんななか、カンナの花が咲きました。カンナの花は多くの人に勇気を与えました。

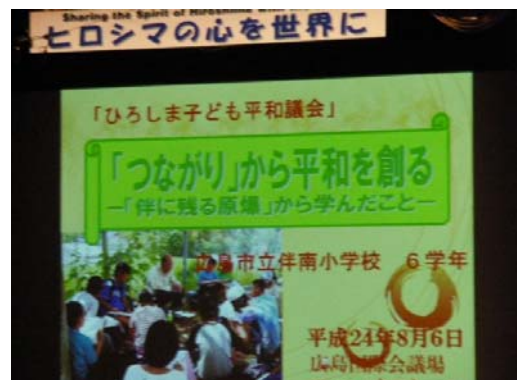
そのカンナに感動し、大州小学校ではカンナを植える活動をしています。今ではこの活動は世界に広がっています。

大州小学校ではこれを歌にして全校生徒で元気よく歌ってくれました！！

●「つながり」から平和を創る

伴南小学校6年生の皆さんは実際に被爆された方にお話をうかがったそうです。

その話を聞いて、「人と人の心のつながり」が最も大切だということをつよく感じました。



学びの発信（参加後報告）



●千羽鶴

みんなで折った千羽鶴を平和記念公園へ奉納してきました！

全国からものすごい数の千羽鶴が届けられていました。これほど多くの方が世界の平和を願っているのが分かって感動しました。私もみんなの願いがこもった千羽鶴をしっかりとかけました！

●平和記念資料館

平和記念資料館に行きました！

右の写真は広島におちた原子爆弾と同じ大きさのものです。すごく大きくてびっくりしました。このほかにも、爆弾がおちた時にとまった時計や広島市内の模型など見ておどろくものばかりでした!!



●灯篭流し

2日目の夜は灯篭流しをしました！

私たちは一人ずつ自分の灯篭を流しました。ライトアップされた原爆ドームがすごくきれいだったのですが、灯篭もすごくきれい!!

たくさんの灯篭が川をうめつくしました。ろうそくのやさしい光がとてもきれいでした。

●広島へ行って...

今書いたこと以外でも、平和記念式典にでたことやひろしま子ども平和議会の感想、被爆体験講話の話など書きたいことがまだまだあります。

今回の研修はそれくらいたくさんの経験をしました。私が体験したことをたくさんの人に伝えたいと思います。

世界が平和でありますように!!



研修の記録（事前学習）第二次世界大戦の戦時下の生活

●戦争中の食べもの（配給・切符制になったもの）

- | | | |
|------|----------|--------|
| ・砂糖 | ・醤油 | ・じゃがいも |
| ・小麦粉 | ・ビール | ・お菓子 |
| ・卵 | ・さつまいも | |
| ・塩 | ・みそ | |
| ・牛乳 | ・育児用の乳製品 | |
| ・酒 | ・米 | |

食糧不足問題が深刻になった年は、庭や校庭を利用して家庭菜園などが盛んだった！！

●戦争中の人々の生活

戦争が長びくにつれて生活は苦しくなっていく。生活に必要なものが自由に手に入らなくなり、政府から配られる切符を使って配給を受けていた。

しかし、人々は「欲しがりません勝つまでは」や「ぜいたくは敵だ」といったスローガンで自分をはげまし、不自由な生活にたえていました。

●感想

いくら自分たちがつらくても、戦ってくれている日本に感謝して、その生活をたえていた当時の人々はとても強くて素敵だと思います。もうこのようなことがあってはなりません。戦争は必ず世界からなくさなければならないと思います。

学びの記録（参加中学習）被爆証言講話

●講話してくださった方

写真の真ん中にいる方です。



●原爆落下までの流れ

【落下前】

〈国の状況〉

- ・ 政治→国家予算はほぼ軍隊へ⇒国民は貧乏
- ・ 日本は何の資源もない小さな国だったが軍力はあった。
- ・ 広島は軍の中心地、民間よりも軍隊のほうが多かった!?

【落下時】

8月6日、アメリカ軍の飛行機に箱がついていた。人々はそれを原子爆弾とは知らず、避難する用意はしなかった。そして、その箱は落とされ、上空600メートルのところで爆発した。そして、目を覚まし辺りを見わたしてみると、広島じゅうがすべて見えた。

ほぼすべての建て物が倒壊している。「助けて」と誰かが叫んでいるが、がれきの下じきになっていて見つけることができない。すべての人が真っ裸。皮膚ははげている。地獄のようだった。大人も子どもも関係なく叫んでいた。しかし、助けようとしても誰も助けられなかった。人が自分の腕の中で亡くなっていくつらさと感覚は今でも覚えている。

【落下後】

8月6日の夜。あたりは9割くらい真っ黒。しかし、暗闇の中に青白い炎があった。

朝になると死体がなくなっていた。その死体は軍隊のトラックに積みこまれ、燃やされ処分された。それからしばらく、がれきの撤去作業が行われた。

●講師の方が今、伝えたいこと

・人に感謝すること

特に親に感謝してほしい！

原爆で亡くなっていった子ども達は、亡くなる前に必ず「お母さーん」と叫んで亡くなっていった。愛をもち続けて。

・一日一日を大切に

今は何もないけど、明日は何かあるかもしれない。生きている中で何がわかるかは誰にもわからないから、一日一日を大切に生きてほしい。



・前進あるのみ

今の生活は幸せすぎる。満足はしないでほしい。

常に前に進み続けて、自分の中で花を咲かせて輝いて！！

・戦争時の生活について深く知って

どれだけたくさんの人々が苦しんできたかをよく知って、今をどう生きればいいのかをよく考えてほしい。

●感想

講師の方は約60年前のことをとてもくわしくお話してくださいました。思い出したくもない、つらいお話を。こんなにも長い間、忘れられないほどのできごとなんだと思いました。

ずっとずっと人々を苦しめている戦争や原爆はこの世界から消していかなければならないと改めて実感しました。

お話して下さった講師の方にとっても感謝しています。

学びの発信（参加後報告）

「8月6日、アメリカ軍の飛行機から原爆が投下され、一瞬で広島が崩壊した。あたりを見わたすと倒れて助けを求めている人たちでうめつくされていた。まるで地獄のようだった。」

こうお話してくださったのは被爆者の方の一人です。あまりに悲惨で、はじめはなかなか信じることができませんでした。原爆が投下されてから約60年。そんなに前のお話をとてもくわしくお話してくださいました。原爆はそんなにも長い間忘れられないほど人の心を傷つけるものだとは改めて実感しました。

広島に行ったことで、今までよりも戦争はなくさなければならないという思いが深まりました。戦争で被害にあった方、亡くなられた方のためにも戦争のつらさと儚さをたくさんの人に伝えていこうと思います。そして、もっともっと戦争時の世界について深く知り、今をどう生きていかなければならないのかをよく考えて生活していきたいです。

平和な世界になることを願って...



学びの発信（参加後報告）

未来を担う若者たちとともに

8月6日。

世界中の人々が恒久平和の実現を希求し、ヒロシマに想いをよせる。

そのヒロシマで、昨年に引き続き、燕市を代表する中学生5名と行動を共にする機会を得た。昨年同様、さすが燕市を代表する中学生である。ヒロシマの過去から今から、そしてヒロシマの人々から遺品や資料から懸命に学び取ろうとする彼らの熱い視線を見ていると、「戦争や紛争のない、核兵器の脅威のない世界は必ず実現する」という大きな希望が湧いてくる。未来をつくっていくのは、彼ら若い力である。



「教科書や資料集で学習したことと全然違った。」

「実際に目の当たりにし、その悲惨さが心に響いている。」

「ここ（広島）にいと、67年前のできごとがとてもリアルに感じられる。」

「自分の目で見、自分の耳で聞いたことを自分の言葉でしっかり伝えていきたい。」

「いろんな場面で学んだ戦争や原爆の悲劇を私たちのこの世代が学び、伝えていくことが大事だと思う。」

宿でのミーティングにおける生徒たちの言葉の一部である。

67年前の惨禍を、同じように体験することはできないが、わたしたちは想像することによって、共感することができる。悲しい過去を変えることはできないが、わたしたちは未来をつくるための夢と希望をもつことができる。

平和はわたしたち一人一人の手でつくるものである。違いを認め合い、相手の立場になって考えることも平和だし、想いを伝え合い、力を合わせ支え合うことも平和である。身近なところからできることがある。

そんな想いを、燕市を代表する5名の中学生とともに強くしていった三日間であった。

平和をつくり続けていく努力を、その気持ちを忘れてはならないと誓う。

未来を担う若者たちとともに。

学びの発信（参加後報告）

想いを共有すること

広島平和記念式典の平和宣言の中に、次のような言葉がある。

「世界中の皆さん、とりわけ核兵器を保有する国の為政者の皆さん、被爆地で平和について考えるため、是非とも広島を訪れてください。」

広島を訪れた際、その言葉の意味を私は痛いほど身体で感じた。

原爆の悲惨さについて、ある程度理解しているつもりでいたが、それはあくまで「知識」として理解をしていただだけで、本当の意味では少しも分かってはいなかったということに気付かされた。

平和記念資料館で、戦争の爪痕を実際に目の当りにした時もそうだったが、何より、被爆体験講話の講師の方や、平和記念公園で当時の状況を事細かに説明して下さったボランティアガイドの方の生の声が、私により大きな衝撃を与えた。

特に被爆体験講話の講師の方の話は、その言葉一つ一つから、言葉では表現しきれないほどの悲しみ、苦しみ、怒り、そして願いが感じられ、思わず涙がこみ上げてきた。

話の中で講師の先生は「人間は幸せになると馬鹿になる」「皆さん、お墓参りをきちんとしましょう」とおっしゃっていた。

私たちが今日、当たり前のように享受している平和で快適な生活に至るまでには、多くの犠牲があったということ。そして、当たり前だと思っている事が、実は有難いものであり、感謝の気持ちを忘れてはならないことなど、改めて多くのことを考えさせられた。

一緒に広島を訪れた5名の中学生達も、どの場面においても、まるでスポンジが水を吸うかのごとく、多くのことを吸収しているようだった。

広島という地へ自ら訪れ、様々な物を見聞きし、感じ、核兵器廃絶への想いを共有する。

教科書では得ることができない、多くのことを学ぶことができた3日間だったと思う。

平和な世界の実現へ向けて、一人一人ができることは小さなことかもしれない。しかし、この経験を、思いを伝えるということの大きな意味を、広島へ訪れ実感した。私も今回の経験で得たこの経験、思いを一人でも多くの人へ伝えたいと心から強く思った。



1 派遣事業の概要

派遣事業の概要は次のとおりです。目的を理解し、有意義な学習活動となるよう留意してください。

① 目的

非核平和宣言推進事業及び平和学習活動実施の一環として、広島平和記念式典をはじめとするさまざまな催しに次代を担う中学生を派遣することにより、国際的な視点をもって命の尊厳や平和の尊さについて理解できる生徒を育成することを目的とする。

② 日程

平成24年8月5日(日)から 平成24年8月7日(火)まで

③ 主な活動内容

- (1) 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式への参列
- (2) 広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑等の見学
- (3) 原爆の子の像に各校で作成した千羽鶴を納める
- (4) 被爆証言講話の受講
- (5) 灯籠流しへの参加
- (6) 事後研修（8月下旬から9月にかけて事後研修として報告会を実施など）

④ 参加者名簿

氏名	性別	学校名	学年	備考
横 田 志 織	女	燕中学校	3	
田 代 朝 日	男	小池中学校	3	
高 井 翼	男	燕北中学校	3	
鈴 木 日和子	女	吉田中学校	3	
白 倉 早 紀	女	分水中学校	3	

⑤ 引率者

小 林 靖 直	男	学校教育課
宮 野 典 子	女	防災課

2 派遣事業参加中の役割分担

自主的な学習活動の一環として、参加者の皆さんから、次の通り役割分担をしていただきます。

役割分担の内容		氏名
(1)	出発式代表あいさつ(参加に当たっての心構え)	横 田 志 織
(2)	被爆証言講話講師へのお礼のことば	高 井 翼
(3)	ミーティング司会	白 倉 早 紀
(4)	2日目昼食場所の選定（意見とりまとめ）	鈴 木 日和子
(5)	宿泊先での世話（食事、入浴の連絡等）	田 代 朝 日

3 話し合いによる、事業の目的に沿った学習活動の展開

「国際的な視点・命の尊厳・平和の尊さ」を学び、さらに、他の生徒たちへ伝えるため、「研修の記録」、「学びの記録」、「学びの発信」という3ステップで学習活動を進めます。

① 参加前学習（研修の記録）

- (1) 行程及び資料の確認
- (2) 広島原爆投下の歴史的背景
- (3) 第二次世界大戦の戦時下の生活
- (4) 原子爆弾の被害・惨状
- (5) 今、世界のどこかでおきている戦争
- (6) 被爆体験者へ聞いてみたいことは何か

全 員
高 井 翼
白 倉 早 紀
鈴 木 日和子
田 代 朝 日
横 田 志 織

② 参加中学習（学びの記録）

- (1) 平和記念公園
- (2) 平和記念資料館
- (3) ひろしま子ども平和議会等
- (4) 被爆証言講話
- (5) 広島平和記念式典

高 井 翼
田 代 朝 日
鈴 木 日和子
白 倉 早 紀
横 田 志 織

（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）

③ 参加後報告（学びの発信）

参加後に報告として次のとおり取りまとめ、8月24日（金）までに各学校へ提出してください。

項目	説明	担当者	備考
(1) 研修の記録	期間中の主な行程についてまとめる	執筆分担による	A4一枚程度 (写真2枚)
(2) 学びの記録	見聞きして学んだことをまとめる	執筆分担による	A4一枚程度 (写真数枚)
(3) 学びの発信	参加して得たものをまとめ、発信する	各参加者全員	400字程度 (写真一枚)

※各学校で報告会などを実施し、全校生徒に学んだことを伝えてもらいます。

4 その他

① 宿泊先施設

名 称	木松旅館
所 在 地	広島市西区己斐本町2丁目1番3号
電 話 番 号	082-271-1424
F A X	082-271-4850

② 服装

区分		主な活動内容	制服	私服
1日目	午前	出発～宿泊施設		○
	午後	広島平和記念公園で千羽鶴を納める	○	
	夕方	講話受講	○	
2日目	午前	広島平和記念式典参加	○	
	午前・午後	ひろしま子ども平和議会見学	○	
	夕方	灯籠流し		○
3日目	午後	宿泊施設～燕三条		○

美しい自然を愛し平和を願う心は人類共通のものです。

これを根底から揺るがし、地球環境と人類の平和を脅かす核兵器は絶対に容認できません。

世界でただ一つ悲惨な体験をした被爆国の国民として、核兵器の廃絶と非核三原則をいま一度世界に向け強く訴えていかなければなりません。

人と自然と産業が調和しながら進化するまちづくりをめざしている燕市は、新市誕生を機として、決意を新たに世界の恒久平和を願い、ここに「非核平和都市」を宣言します。

燕 市

被爆アオギリ二世

被爆アオギリ二世の親木のアオギリは、爆心地から北東 1.3 kmにある中国郵政局の中庭で被爆しました。爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、被爆者に生きる希望を与えました。その後、このアオギリは昭和 48 年(1973 年)に平和記念公園内に移植され、今でも樹皮が傷跡を包むようにして成長を続けています。被爆アオギリ 2 世は、このアオギリの種から育てられたもので、「平和を愛する心」、「命あるものを大切にすること」を育み、平和の尊さを伝えるとともに、過ちを再び繰り返さないよう、被爆の実相を後世に伝えます。

燕 市 平成 19 年 4 月 植樹



市役所吉田庁舎正面玄関前 (2011.8.18 撮影)



広島平和記念式典派遣事業

参加者のしおり 2012年8月5日(日)～7日(火)

燕市：●総務部総務課 ●教育委員会学校教育課